

2011年12月1日

白鶴酒造(株) 御中

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク
副運営委員長 羽賀育子

“PETボトル入日本酒”販売に関する質問へのご回答の御礼と 再びの質問へのご回答のお願い

前略

先般は、私どもの突然の質問にもかかわらず、たいへん丁寧なご回答をいただきまして、ありがとうございました。

いただいた文面からは「一升瓶の拡売は当社の重要な課題と位置付け」と明記されるなど、御社の真摯な姿勢が伝わって参りました。ご回答の内容は、ぜひ全国の仲間や大勢の皆様にお知らせしたいと存じますので、私ども3R全国ネットワークのホームページで本文章と共に公開させていただきますことを、あらかじめお伝えさせていただきます。

なお、お送りいただいたご回答の中で、いくつか不明な点がございましたので、たいへん恐縮ですが、改めまして以下のとおり質問いたしますので、ご回答いただけますよう宜しくお願い致します。

早々

【質問事項】

1. 質問1の食味についてですが、ご回答には「官能試験によって確認されている」とのことで、問題ないとされています。

この点につきまして、劣化の早いプラスチック容器が数千年の歴史があるガラスびん容器と同じ品質を保持できるとは思えません。先の質問でも、きちんとしたデータで示してくださいとお願いしておりましたが、改めまして、＜通常のPETボトル＞＜ガラスびん＞＜御社のDLCコーティングしたPETボトル＞の食味試験のデータを教えてください。

2. 質問3では、PETボトルには酸化防止剤などの化学物質を添加していないとのご回答です。

この点について、インターネットで調べたところ、PETボトルは添加剤を使わないでも作れるが、副生成物としてアセトアルデヒドが発生するそうです。この物質が発生すると風味に影響があるとのことですが、おいしさが一番大切である日本酒に影響ありませんか？

3. 質問4についてですが、「一升瓶の拡売は当社の重要な課題と位置付けている」とのご回答には、一安心いたしました。

が、我が国のこれまでの例では、“消費者のニーズ”というものが、すべて消費者が本当に望んだものだけでなく、残念ながら事業者には作られたものも多々ございました。

今後、御社のDLCコーティングしたPETボトルの売れ行きが伸長した場合にも、リユースの代表選手である一升瓶の拡売が維持されるのでしょうか？

4. 質問5についてですが、「事業者の責任範囲である再商品化義務」は果たされているとのこと。

今日では、“再商品化義務”を定めた容器包装リサイクル法の上位法である「循環型社会形成推進基本法」にも掲げられているとおり、リサイクルよりも、リデュース、リユースを優先することが求められています。また、ご存じのとおり、PETボトルの回収率が高いのは自治体が集めていることが寄与していますが、事業者はその回収費用を負担していないのです。これでは、事業者としての環境配慮責任を果たしていないのではないのでしょうか。

この点も含め、御社としては、“企業の社会的責任(CSR)”を、どのようにお考えでしょうか？

5. 最後に、追加質問となってしまう恐縮ですが、御社のホームページの記述についてお尋ねします。

- 1) ポイント②で、「ガラスびんと比べたCO₂排出量が容器製造時に8割、輸送時に3割削減」と記述されておりますが、回収率の高い一升瓶はCO₂の排出量も少ないはずですが、「当社調べ」とありますが、どんなガラスびんと比べているのでしょうか？前提条件を教えてください。

- 2) ポイント⑤では、「花見や行楽にぴったり」とされています。この点について、近年、PETボトルの散乱ごみが大きな社会問題になっていることをご存じかと思えます。御社は、今回のPETボトルが散乱ごみとならないような対策として、どんなことを考えていらっしゃるのでしょうか？

以上、ご多忙の折、恐縮ではございますが、どうぞよろしくご回答いただけますよう、お願いいたします。